

『女性労働研究』 執筆要領

女性労働問題研究会編集委員会（2026年3月現在）

1. 執筆の形式

原稿は、和文を原則とし、Word ファイルで作成する（横書き40文字×30行程度）字数の指示は「執筆依頼」で行う。

英文での執筆を希望する場合は、編集委員会に相談すること。

2. 本文

- （1） 文体は、特に指示がない限り、「～だ」「～である」調とする。
- （2） 見出しならびに小見出しの前後は、それぞれ一行ずつあけて原稿を作成する。
- （3） 本文中の引用文はカギカッコ（「」）で、引用文献は二重カッコ（『』）でくくる。

【例】 『女性労働研究』の第31号によると、「新・日本的経営」とは

- （4） 組織名等の略称を用いる場合は、初出に正式名称を用い、以下略称を用いることを要する。

【例】 都区関連一般労働組合（以下、「都区一般」と略す）

- （5） 注は、注をつけたい個所に算用数字を用いて、以下のように表記する。

【例】 『女性労働研究』によると^{（1）}、

- （6） 本文中の引用文献、参考文献は、以下のように表記する。

【引用文献の例】

日本人の働き過ぎの思想的背景として、「和の思想」を抽出している〔本多淳亮、1996、56頁〕。

【参考文献の例】

ブルムは、ペイ・エクイティ運動の持つラディカルな可能性について指摘している〔Blum,LindaM.1996〕。

3. 数量・年号の表記

- （1） 数の表記は算用数字とし、千の位で「,」区切りを入れる。

【例】 1,230人

- （2） パーセントは記号の「%」を、それ以外の単位は片仮名を用いる。
- （3） 年号は、原則として西暦を用いるが、例外も可とする。

4. 図および表

図および表等は別紙に書き、図は図の下に、表は表の上に、標題および連続番号を付ける。また、本文原稿の欄外に、図表の挿入個所をわかりやすく指定する。図表の枚数・大きさは、依頼の枚数内に含めて計算する。

【図表字数換算の目安】

図表はそれぞれ一つ500字相当とする。

5. 注、引用文献、参考文献の表記の方法

注、引用文献および参考文献は、本文末尾にまとめて、注、引用文献、参考文献の順に付記する。注、引用文献、参考文献の字数も、本文の字数に含める。

(1) 注

【例】 (注) (1) 1979年に発足したペイ・エクイティを推進する組織である。

- (2) 引用文献、参考文献は和文献と外国文献に分け、和文献はアイウエオ順、外国文献はアルファベット順に、以下のように表記する。なお、DOI (Digital Object Identifier) が付与されている文献には、付記すること。

☆和文献

- ① 雑誌論文：著者名、発行年、「論文名」『雑誌名』巻号、引用頁。

【例】高島道枝、1996年、「イギリスの食評価と銅市価値労働同一賃金」『女性労働研究』30号、59頁。

- ② 著書（編書）：著者名（著者名/編者名）、発行年、『書名』、引用頁。

【例】本田淳亮、1996年、『企業社会と労働者』大阪経済法科大学、125-128頁。

- ③ 翻訳書：翻訳者名、発行年、『翻訳書名』、出版社、引用頁。（原著者名、発行年、著書原題（イタリック表記）、出版社名）

【例】森ます美・居城舜子ほか訳、1996年、『フェミニズムと労働の間』お茶の水書房、156-171頁。（Blum, Linda M., 1991, *Between Feminism and Labor: The Significance of the Comparable Worth Movement*, University of California Press）

☆外国文献

- ① 雑誌論文：著者名、発行年、「論文名」雑誌名、巻号、引用頁

【例】Blum, Linda M., 1983, "Politics and Policy-Making," *Berkeley Journal of Sociology* Vol.1 No.28, p.25

- ② 著書（編書）：著者名（著者名/編者名）、著書名、引用頁

【例】 Blum, Linda M.,1991, *Between Feminism and Labor: The Significance of the Comparable Worth Movement*, University of California Press, pp.25-28